

海の妖怪、山の妖怪

現在と違って、
明かりといえば
日光か月の光、
焚火の炎くらい
しかない全くの
自然環境で生活
する場合、仕事
のサイクルは自



佐賀 彩美 (さが あやみ)

アイヌ語地名研究会

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モントレー国際大学院（現ミドルベリー国際大学院モントレー校）通訳翻訳学科修士課程修了。北海道大学大学院農学院農学専攻博士後期課程修了。全国通訳案内士。

然に合わせるしかありません。アイヌの人たちが山に入る場合は、陽が陰ってくる午後3時頃になると帰路を急ぐか、山中での宿泊の準備を始めました。自然のなかでは、月明りでもなければ、夜は真っ暗闇になってしまいます。そうすると恐怖心もあって、見えないはずのものが見えたり、不思議な音が聞こえたような気がしたりもします。そんなところからさまざまな妖怪が生み出されたのかもしれません。

海の妖怪として知られているのは、波の泡が集まって生まれるというルルコシンプです。ルルは潮を意味し、コシンプは波の泡を意味するアイヌ語コイシュムプク(koy-波 syum-油 puk-泡)に由来しています。この妖怪は女性であったり男性であったりもします。どちらも水上を歩いてくる絶世の美女、美男であると言われ、命を奪われる特定の人だけがそのように見えるそうです。それぞれ美女は男性を、美男は女性を誘惑して海中に誘い入れると言われています。

海が荒れると、海水が攪拌^{かくはん}されて海底の生物が海面近くに移動するため、良い漁ができるのですが、欲を出しすぎると事故につながることから妖怪が人間を連れ去るという話ができたとも言われています。コシンプは山にもいて、こちらはイワ(iwa-山)コシンプと言います。女性と男性がいることも、絶世の美女または美男であることも海のコシンプと同様です。ルルコシンプもイワコシンプも悪いことばかりではなく、憑神^{つきがみ}となった場合には漁や獲物に恵まれるそうです。着物の裾模様にコシンプルという蛇行する線が表されることがあります。この模様もコシンプに由来しています。

湿地に棲むとい
う、ケナシウナルペ
(kenas-疎林 unarpe
-おばさん)とかニタ
ウナルペ(nitat-湿
地 unarpe-おばさ
ん)も、自分が集荷
して積んでおいた

薪^{まき}を勝手に持って行った人間の命を奪う場合があると
言われています。その一方で、誘拐された子どもや捨て
子を育てたという「美談」(山姥^{やまんば}が足柄山^{あしがらやま}の金太郎を育
てたという話と同じ)も伝わっています。やがて、その
子どもは成長してから、ある村に戻されました。子ども
の体は泥だらけで、着物にはキノコが生えているような
有様でした。村人がこの子を川に連れて行って6回フッ
サカル(hussa-息吹をふき kar-かける)というお払い
をしたところ、魔性の気が消えて人間の子どもになりました。
子どもは発見された村から遠く離れた村の出身で、
その村では神隠し^{かみかく}に遭^あって行方不明ということになって
いました。子どもの母親が自分の子であることを確認し、
その後二つの村は婚姻関係を結ぶなど交流するようにな
りました。村人達は、子どもを育ててくれた魔性に御
幣と供物をささげてお礼をしたということです。この湿
地に棲む妖怪の好物は、塩と昆布だそうです。誤って
妖怪が積んでおいた薪を持ってきてしまい、何か異常
が起きた場合は、塩と昆布をお供えしてお詫びするとよ
いとのこと。実際、この話を伝えたお婆さんの娘さん
が、積んであった薪をいただいてきてから、2~3歳
だったお婆さんの孫が食事をせず、顔は真っ黒、土壁
を食べるようになってしまいました。神降し^{かみおろ}をする人に
聞いたところ、家族の者で、置いてあった薪を持ってきた
者がいるはずだ、と言われました。そこで、塩と昆布
を供えて薪も元のところに戻し、お詫びしたところ子
どもは正常に戻ったそうです。

*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として（一社）北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長

アイヌ学全般（精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療（整体ほか）等）を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査（北海道教育委員会）に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する。主な著書：『アイヌの霊の世界』（小学館、1982年）、『アイヌ、神々と生きる人々』（福武書店、1985年）、『アイヌ学の夜明け』（梅原猛氏との共編、小学館、1990年）、『アイヌのごはん』（監修、デーリィマン社、2019年）、『平成20～令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1～14』（北海道教育委員会、2008～2023年）等。